

身に付く英語

アメリカ・ニュージャージー日本人学校（2018～ ）

下関市立川中西小学校 伊田 俊輔

1 子どもたちの英語力の向上に驚かされたこと

アメリカに派遣されて一番驚かされたのは、英語力の向上である。とは言っても、英語力が向上したのは私ではなく、3人の娘たちである。私は昔から英語が苦手で、今でも話すことも聞き取ることもうまくできないでいる。

今年の秋、コーンメイズに遊びに行ったときにこんなことがあった。コーンメイズとはとうもろこし畑を利用して大きな迷路にしたものである。チェックポイントを通過してゴールするまで1時間はかかってしまうほどの広さである。このようなコーンメイズはいろいろなところがあり、秋の風物詩のようなものだ。そのコーンメイズを遊び終えて受付に戻ると、受付の人がリンゴをかごに入れてくれた。受付の人がなにやら説明してくれるのだが、何を言っているのかまったく聞き取れない。そのとき、娘が『このりんごは蜂が刺して、売り物にならないから、外のパチンコで遊んでいい』って。」と教えてくれた。私は目が丸くなった。妻の方を見ると、妻も同じように驚いていた。3人の娘のうち、2人はアメリカに来て、ニュージャージー日本人学校に入学した。1年生と3年生だった。アメリカに来る前は、英語とはまったく無縁の生活を送っていた。また、アメリカに来てからも、学校以外で英会話などの習い事をさせていたわけではない。学校での英語の授業とESL（共に現地のアメリカ人が行う授業）で学んだだけでこれだけの力がついたのだ。当時、2年生だった娘がはっきりと聞き取れたことに信じられないぐらいの驚きであった。

それよりも、もっと驚かされたのが末っ子の娘である。アメリカに来たときに現地のNursery school（保育園）に通わせた。もちろん、日本語を話す友達もいなければ先生もいない。英語だけの環境に身を投じることになる。娘にこれだけだと覚えさせたのは「Pee」という言葉だった。これは「おしっこ」という意味である。最初は泣いて行かないと言い出すのかと心配だったが、その心配をよそに、娘は喜んでNursery schoolに通うようになった。クリスマスコンサートが近づくと発表する歌を家で歌うなど、家の中でも英語で話したり歌ったりする姿がよく見られるようになった。そのうちルー大柴のように会話に英単語が混じるようになってきたのである。今年の秋から進学したkindergarten（幼稚園）では更なる成長を見せた。娘が通うkindergartenは日本人も通うところで、英語が話せない日本人のためのESLがある。そこでは、「クリーニング」と言って発音を徹底的に直される。そのおかげで発音がどんどんとよくなり、最近では娘の言うことですら聞き取れなくなってしまうほどである。

子どもたちの英語力の向上は目を見張るものがある。それも、アメリカにきてからの学習環境によるものが大きい。毎日、ネイティブな英語を耳にすることが、これだけの上達につながったことは間違いない。



コーンメイズ



パチンコでリンゴを飛ばす

子どもたち

2 ニュージャージー日本人学校の英語教育

ニュージャージー日本人学校では、日本での教科に加え、ESL (English as a Second Language) と英語が行われている。また、図工は「ART」と名前を変え、米人の講師が指導している。米人の講師による1週間の授業時数は右の表のとおりである。子どもたちは、毎日1～2時間は英語のみで学習する機会があることになる。それだけ英語に触れることがあれば、自然と耳が慣れていき、英語が聞き取ることができるようになるのも納得できる。では、それぞれどのような授業をしているのか少しずつ紹介していきたい。

米人の講師による1週間の授業時数

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
ESL	4	4	4	3	3	3
英語	1	1	1	1	1	1
ART	2	2	1~2	1~2	1~2	1~2
合計	7	7	6~7	5~6	5~6	5~6

(2018年度)

ESL (English as a Second Language)

ESLは、1年生から3年生、4年生から6年生と一緒に授業を受けている。年度の初めにテストを行い、学力に応じてクラスが分けられる。英語が初めてという子どもに対応したクラスもあり、安心して英語の学習ができる。また、現地校から転入してきた子どもは、1年生でも一番難しいクラスに入ることもある。ESLでは、読むことは勿論、書くことも学習する。低学年でも、単語だけでなく簡単な文章を書くことを目標としている。



ESLでは授業の最初に、アルファベットの発音の練習をしています

英語

英語は学年ごとに授業を行い、アメリカの文化や慣わし、歴史などをそれぞれの学年に応じて学習している。Mothers Day (母の日) などには、アメリカならではのプレゼントを作って贈ったり、Thanksgiving Day (感謝祭) では、イギリスから移住した



ジャコランタン作り



父の日のプレゼント

ときの話の聞いたりする。Halloween (ハロウィン) では、シュガーパンプキンでジャコランタン作りを毎年行っている。絵本の読み聞かせや工作などを通して、アメリカの文化について楽しく学ぶことができる。

ART

ARTでは、日本の図工と同じように絵を描いたり工作をしたりしている。しかし、その指示はすべて英語で行われる。実際にどのようにやるかを見せながら英語で指示をするので、英語が分からなくても活動にそれほど支障は出ない。むしろ、何度も同じ英語の指示が出てくるので、だんだんと耳が覚え、聞くだけで何をするのかが分かるようになってくる。



ARTの授業の様子

3 子どもたちの成長を見て思うこと

子どもたちの英語力の向上には驚かせられるのだが、授業の様子を見ると納得することばかりである。

一つ目は、何度も出てくる同じ指示である。put in (入れる)、clean up (片づける)、take out homework (宿題を出す)、go get (取りに行く) など、挙げればきりが無い

くらいである。その指示する言葉を口に出したりノートに書いたりして覚えるのではなく、実際に行動に移すことで頭ではなく体全体で英語を覚え、いつの間にか自然に行動できるようになっていく。繰り返し同じことを耳にするだけでなく、動きを伴って覚えることがとても大切なことだと気づくことができる。

二つ目は、何度も英語を口に出して言うことである。そんなことは日本の授業でもしていると思われるだろうが、こちらでの「口に出す」ということは全然違うものであった。どういうふうに違うかと言うと、例えば何か終わったときは、“I’m done.” (終わりました)、ビンゴゲームをしているときは、“I have it. I don’t have it.” (持っている、持っていない) などというように、きちんと文章にして声に出させている。私が日本で教えているときは、単語だけを繰り返すことが多かったが、ここまできちんと文章にして繰り返させていることに感銘を受けた。よく漢字学習では漢字だけ練習するのではなく、その漢字を使った文章を練習するように言っているが、それと同じで、英語も活用できなければだめなのだということである。

日本でも英語の授業が本格的に始まっているが、綿密な指導計画のもと、何を子どもたちに習得させるのかを考えたらうえで学習させなければ、ただ英語をしたという事実だけが残る結果にならないだろうか。私は英語が得意ではないし、寧ろ苦手である。しかし、教えられる子どもたちにとって、身に付く英語にするために努力しようと思わせてくれる授業を見ることができ、ニュージャージー日本人学校に派遣されて幸せであるとしみじみ思う。